

看護師たかこの

すこやか生活

2018年2月



寒い日が続いていますが、大分より寒い平昌オリンピックで日本人選手のすばらしい活躍が報道されています。金メダルをとった羽生結弦選手や小平奈緒選手は幼少のころから競技に親しんできました。金メダル獲得後それぞれが語っていたのは、人からの支えに対する感謝のことばでした。そして両者とも競技後一緒に戦った仲間たちをたたえあっていたのが印象的でした。国と国との関係がいろいろあっても、スポーツのなかでは、一緒に戦い、励み、練磨しあってきた仲間、友人だったのです。元金メダリストで解説者の清水宏保氏が、解説の中で筋肉一本ずつをどう鍛えどのように使うか、精神的な反応により神経から筋肉の反応についてなどを説明していました。スポーツ選手一人が一流の選手になるには、多くの人からの支えを受けられることと同時に、本人が精神的にも身体的にも自分自身を鍛え、そして豊かで深い人との関わりができる人でなければなさないと思いました。人は人と人との関係の中で、活かされ生きているのですね。



話は変わりますが、2020年度から小学校を皮切りに新しい学習指導要領がスタートすることが、テレビや新聞等で取り上げられています。目玉は「アクティブ・ラーニング(能動的学習)」です。私が何十年も前に受けた授業より、楽しそうです。私は小中高校全て、マンモス校で育ちました。小学校では一クラス4・50人1学年6から7クラス、中学高校は12クラスありました。今では考えられない人数と教育だったように思います。もちろん幼稚園も多かったです。アクティブ・ラーニングは一方的に教えるのではなく、学ぶ側が討論や体験などを通じて能動的に学習する活動です。指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」と表現されています。つまり今までの学習はどちらかというと受身的教育であったのを、受ける側が能動的に学習する教育に変えていこうというものです。世の中の変化によって、学んできた知識は時代とともに使われなくなったり、変化したり、あるいはまったく新しい知識が必要になったりします。私自身長年看護師としての仕事をしていまして、今までの知識が全く使われなくなったり、新たな知識を補充したり、変えて行ったりしなければならぬことに遭遇します。さらに全く違う発想で考えないと、現状突破できないこともあります。ですから、自ら考えて行動できるようにならないといけないのです。少子高齢社会の日本では自律した人間が求められます。子どもの自律性をたいせつにしたいですね。

たかこ